

2020年9月6日（日）

主 題：「責任を果たしましょう」

－主にあって－

テキスト：1 ペテロの手紙2章13～17節

## はじめに

- ・前回私たちは、キリスト者はこの地上では旅人、寄留者であることを学びました。今がすべてではありません。未来があります。永遠の生があります。  
なんとという幸いではありませんか。
- ・では、ひたすら天のことを思って生きていればよい、現在の生のことは、どうでも良いのでしょうか。いいえ、決してそうではありません。
- ・次の聖句をお読みください。  
**2:12 異邦人の中にあって立派にふるまいなさい。そうすれば、彼らがあなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたの立派な行いを目にして、神の訪れの日に神をあがめるようになります。**
- ・皆さん。これが私たちの生きる姿であります。ところで、「立派にふるまう」とは、どういう意味と意思ですか。私たちは、立派にふるまう人になりたく思います。それはクリスチャンらしく、敬虔に、人のお手本となるように、寛容に、いつも和かに生きることでしょうか。人格的に「あの人は立派だ！」と言われるような生き方をすることでしょうか。
- ・もちろん、そのような模範的な生き方ができる人は幸いです。しかし、だれもがそのような「立派にふるまう」ことができるわけではないと思います。  
この書簡の著者ペテロは、13節以降でその生き方を説明しています。
- ・今日の聖書箇所13～17節において、ペテロは「キリスト者は1人の市民として、責任を果たす生き方をするのだ」と教えています。では、具体的に見ていきましょう。

## 大切なポイント

### 1. 人が立てた制度に従いなさい

#### 1) 社会の制度

**2:13 人が立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。**

- ・私たちの住む社会には、さまざまな制度があります。住む場所が定まれば、住居届けを役所に提出します。結婚すれば、結婚届けを役所に提出します。子どもが誕生すれば出生届けを。役所に提出します。それは1社会人としての責任でしょう。
- ・自動車を運転しようと思えば、運転免許証が必要です。車道を走行するならば、交通規則を守り走ることは、運転者として当然のことです。自分は例外だと良いて、交通ルールを守らずに走行することは、社会の制度を破る行為となります。これらのことは、当たり前のことです。
- ・ところが、そのあたり前のことを守れない人はいるものです。キリスト教の歴史を見るならば、あたり前のことを守らない急進的なグループも、わずかですが存在しました。宗教改革が起こっ

た時代、ルターやカルヴァンの宗教改革と別の流れを作ったグループがいました。

- ・そうしたグループの人々は、聖書を手にして理想的な社会を作ろうとしました。聖書を正しく理解せず、自分たちの解釈によって王国を作ろうとした人々でした。少数でしたが、そういう人々は存在したことは事実です。
- ・しかしペテロは、「人が立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。」(2:13)と教えています。

- ・それでは、なぜ人間は制度や秩序、社会のルール等を作るのでしょうか。私は少なくとも2点を挙げたいと思います。

### ① 制度、秩序、ルールがないならば、混乱が生じるからです。

無秩序の社会を想像してください。どこも大混乱をもたらし、人間は不幸になってしまいます。ですから、キリスト者も人が立てた制度に従うことは大切です。

### ② 神が私たち人間に、秩序やルールを作る力を与えてくださったからです。

ルールを作る人たちは、必ずしも神を敬う人たちではありません。それでも、彼らは、神から与えられている能力を用いています。

- ・神は、神を畏れることを知らない為政者に対しても、完全ではなくても秩序を作り、保つ力を与えておられるのです。それは神の恵みです。

- ・ペテロは、従うことを「主のゆえに」と述べました。制度や秩序に従うことは、「主のゆえに」大切なことです。神を知らない人たちが作った制度や秩序に従うことは、「主のゆえに」大切なことなのです。なぜなら、それは立派な生き方につながるからです。

## 2) 神の制度

2:13 人が立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、  
2:14 あるいは、悪を行う者を罰して善を行う者をほめるために、王から遣わされた総督であっても、従いなさい。

- ・王が支配する国においても、王が立てた総督が当時する地域でも、彼らは悪を抑え、善を推進するために。神様から立てられているので、従いなさい、とペテロは奨めています。
- ・それでは、私たちは為政者や権力を持つ人が定めたことに、無条件に従わなければならないのでしょうか。いいえ、そうではありません。「人が立てたすべての制度」は、いつも正しいとは限りません。絶対的なものではありません。ですから「主のゆえに」逆の態度を取らなければならないこともあります。
- ・聖書から例を挙げてみましょう。

### ①旧約聖書時代のダニエルをみましょう。ダニエル書6章

6:7 王よ。国中の大臣、長官、太守、顧問、総督はみな、王が一つの法令を制定し、断固たる禁令を出していただくことに同意しました。すなわち今から三十日間、王よ、いかなる神にでも人にでも、あなた以外に祈願をする者は、だれでも獅子の穴に投げ込まれる、と。

6:8 王よ、今、その禁令を制定し、変更されることのないようにその文書に署名し、取り消しのできないメディアとペルシアの法律としてください。」

6:9 そこで、ダレイオス王はその禁令の文書に署名した。

6:10 ダニエルは、その文書に署名されたことを知って自分の家に帰った。その屋上の部屋はエルサレムの方角に窓が開いていた。彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。

- ・ダニエルは、王以外の者に祈りをささげてはならないという王からの命令に従いませんでした。

## ②初代教会時代のペテロやヨハネはどうでしたでしょうか。使徒の働き 4章

4:18 そこで、彼らは二人を呼んで、イエスの名によって語ることも教えることも、いっさいしてはならないと命じた。

4:19 しかし、ペテロとヨハネは彼らに答えた。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。

4:20 私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」

- ・ペテロとヨハネは、指導者たちの命令に従いませんでした。

- ・ですから聖書は、権力者にも無闇に従うことを教えてはいません。その点をわきまえた上で、基本的に社会のルールに従い、積極的に善行を行うようにと勧めています。それは15節が述べています。

2:15 善を行って、愚かな者たちの無知な発言を封じることは、神のみこころだからです。

- ・ですから、私たちキリスト者は神に従うものです。「長いものには巻かれろ」ではありません。

『例 話』 「ミッション・宣教の声」

- ・皆様ご存じのように、私はすでに45年以上、創造神を認めない国々の聖徒たちと、教会を支援するに重荷が与えられてきました。かつての旧ソ連邦（ロシア、ルーマニア、ウクライナ、中央アジア等）、そして北朝鮮では、数えきれない多数の兄弟姉妹が信仰のために、迫害を受けてきました。
- ・光と闇の戦いは、これからも続くでしょう。しかし歴史は事実を証明していることを覚えてください、ベルリンの壁崩壊に始まった、ソ連邦は消滅しました。欧州は大きく様変わりしてしまったのです。しかし、聖書のことばは1つも変わりません。
- ・「長いものには巻かれろ」というのではなく、聖書のことばに従順に従った聖徒たちを、私は多く知っています。ここで、私はその全てのエピソードを語り尽くせん。（詳しくは私の著書をお読みください）。
- ・私の短い人生から見ても、聖書のみことばは変わらないことを覚えます。その聖書が、私たちに幸いな人生の歩みを教えてくれていますから、なんという幸いではありませんか。

## 2. 自由人として歩みなさい

### 1) 本当の自由人

2:16 自由な者として、しかもその自由を悪の言い訳にせず、神のしもべとして従いなさい。

- ・ペテロは、キリスト者は自由な者と述べています。だれの奴隷でもない、自由な者です。強制されたりもしません。何をしても自由です。けれども、その自由は「放縦」とは違います。好き勝手にしたいことをするという自由ではありません。また人を支配したり、傷つけたりする自由で

もありません。ですから、「その自由を悪の言い訳にせず、神のしもべとして従いなさい。」と書かれています。

- ・クリスチャンは自由ですが、「神様のしもべ」です。ですから、その自由を与えてくださった神様に服従することは重要です。自由を与えてくださった神様に、自分を明け渡すとき、私たちは罪の力から解放されます。そして自由となることができます。さらに自分のプライド、恐れ、不安からも解放されます。

- ・神様にお従いして歩む人生は、それまで自分を縛りつけ拘束して力から解放される道です。**ガラテヤ人への手紙**

5:1 キリストは、自由を得させるために私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは堅く立って、再び奴隷のくびきを負わされないようにしなさい。

5:13 兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。

- ・逆に神様に従うことをやめるとき、自我の奴隷に、あるいは罪の奴隷に、プライドの奴隷になってしまいます。恐れ、不安に支配されるようになります。

ですから、キリスト者は自由人であり、またすべての人のしもべとなるのです。これがキリスト者の姿でしょう。

### 『例 話』

- ・私の知っているクリスチャン企業カウンセラーがいます。彼は定期的にセミナーを開き、起業家やビジネスマンの育成をしています。その彼は指導する立場ですが、セミナー参加者を皆「社長」とみなして語ると言います。そして自分はセミナー参加者（社長）の部下である「しもべ」と言います。
- ・このような企業理念に立つ会社は、発展し伸びています。彼の企業セミナーは発展し、今や海外にまで進出しようとしています。日本の企業カウンセリングが、海外へ進出するとはあまり耳にしていません。この会社は聖書の原則に立つ企業であります。
- ・私たちは自由人であり、神のしもべです。この二つは何か矛盾するかのようです。しかし、それが実現するのがキリスト者なのです。なんとという幸いではありませんか。

## 2) すべての人を敬いなさい

2:17 すべての人を敬い、兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を敬いなさい。

- ・私たちは自分の尺度で人を評価したり、さばいたりすることがあります。

しかし神様は、ここで大切なこと4点を語っておられます。

- ①私たちが「**すべての人を敬うこと**」を望んでおられます。

ふつう考えると、「**すべての人を敬うこと**」は難しいことですね。その力が私たちの内に欠けているからです。

- ・思い出してください！ イエス様は、そのような私たちにお手本を見せてくださったではありませんか。イエス様は受難を受けられた直前、最後の愛をどのように示されたのでしょうか。それは、弟子たちの汚れた足を洗われました（奴隷の仕事であった）。そしてこう言われました。ヨハネ福音書13章

13:14 主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。



13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。

・「すべての人を敬うこと」、それはイエス様に習うことです。

② さらに「兄弟たちを愛しなさい」とあります。信仰を同じくする仲間を愛することです。Schlatter(シュラッター)という聖書学者は、「兄弟愛には愛がある」と訳しました。イエス様はヨハネ福音書13章で次のように言われました。

13:35 互いの中に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

・愛するということが、これも大変難しいことです。生まれながらの性質をもつ私たちには、できないからです。しかし、ここで視点を変えるとことによって、可能となるのです。すなわち、「あの人、神がご自身のかたちに似せて造られ、愛しておられる存在なのだ」と見ることで、すると愛することができるようになります。

③ また「神を恐れなさい」とあります。神に対する恐れがないと、私たちは高慢になり自己中心になるものです。私たちにとって難しいことは、すべての人を敬うこと、兄弟たちを愛すること、そして神を恐れることの全てが難しいことです。なぜなら、私たちの内には神を恐れる心がないからです。

④ そして「王を敬いなさい。」とあります。神が立てられた王を、敬うことです。そして王の下で、「主にあって」生きることです。すでに学びましたように、この世の全ての制度、秩序、ルールは神様の下にあるからです。

・ペテロはこれら4点を教えました。これら4点を自力で実践することは、容易ではありません。そこで大切なことは、視点を変えることです。「あの人、神がご自身のかたちに似せて造られ、愛しておられる存在なのだ」と見ることで、すると、不可能であったことが可能となっていくのです。それは、神が成してくださる「わざ」であります。ハレルヤ！

## ま と め

主 題：「責任を果たしましょう」

—主にあって—

・今日、私たちは人が立てた制度に従う大切さを学びました。そして神が立てた制度に従う大切さも学びました。私たちキリスト者は、人に束縛されるのではない、自由人として生きる特権が与えられていることを、教えられました。

・なによりも、すべての人を敬い、兄弟たちを愛すること、神を恐れること、そして王を敬うことです。それがキリスト者が社会において、責任を果たしていく生き方であります。

・最後に次の聖句を、ご一緒にお読みしましょう。

2:17 すべての人を敬い、兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を敬いなさい。

\* God bless you!